

地球環境の保全(汚染対策)

考え方

IHIグループは、事業活動を行なう上で、環境法令の遵守と環境事故発生防止をグループ拠点における環境活動の最優先課題と位置付けています。また、事業活動に伴う環境負荷の低減も重要な課題ととらえ、グループ拠点における環境目標のひとつとして掲げています。また、事業活動を行なうそれぞれの地域で行政や地域住民と公害防止協定を交わすなど、地域との連携を重視し、その地域の実情に合った環境保全活動を進めています。

事業所・工場などは水域に面した立地条件が多く、特に水質汚濁防止への取組みが欠かせません。それ以外にも、事業所・工場などの敷地内で使用する油、薬品などの漏えいによる土壌汚染を防止するための対策や、廃棄物の適正な処分も重要なテーマです。

これらの活動を組織的に維持・管理するため、事業所・工場などにおいて環境マネジメントシステムを構築し、定期的を実施している内部監査・環境パトロール・外部審査を通して環境活動のレベルアップを図っています。

体制

IHIグループは、環境保全の取り組み方針や重要事項について、総務関連事項担当役員を委員長とする全社委員会である環境委員会で審議・決定しています。また、事業所・工場などにおいてもそれぞれ環境委員会などを組織し、全社方針を踏まえた上でそれぞれの地域に応じた方針を掲げています。

P.63 環境マネジメント

目標・実績

活動計画	目標	2019年度 の実績
工場・事務所などにおける環境負荷低減	環境法令違反と環境事故発生ゼロ	0

●環境法令遵守状況

IHIグループは、環境に関する事故や環境法令違反などを減らし、その再発防止を目的に、グループ拠点で発生する環境事故などを適切に把握し、重大性の評価と発生の要因分析を行なっています。

2019年度、重大な環境事故・法令違反は発生しませんでした。

(単位：件、対象：IHIおよび連結子会社)

項目	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
重大な環境事故の発生件数	0	0	0	0
重大な環境法令違反の発生件数	0	0	0	0
罰金・違約金などを支払った件数	0	0	0	0

地球環境の保全(汚染対策)

取組み

●水質汚濁の防止

IHIグループは、事業所・工場などからの排水の水質を監視し、排水基準を遵守することで放流先である海域・河川などの公共水域の水質を保全しています。そのため、排水処理設備のメンテナンスを欠かさず、老朽化した設備や機器・計測器などを計画的に更新しています。

また、普段目につかない埋設配管からの漏えい防止を重点課題とし、一定区間の水量チェックや計画的な埋設配管の更新、埋設配管図の作成などにも取り組んでいます。

●土壌汚染の防止

IHIグループは、事業所・工場などにおいて有害物質などを使用する区域を特定し、作業手順の確立・定期的なパトロールなどを通して、化学物質の漏えい防止に努めています。また、工場跡地などを含む68の生産拠点を対象に特定有害物質*や油脂類の使用履歴調査を実施した結果をデータベースで管理し、工場の形質を変更する際の事前調査として適宜活用しています。

※土壌汚染対策法第2条に規定される物質(鉛・六価クロム・水銀など)

●有害廃棄物(PCB含有廃棄物)

IHIグループは、PCB含有廃棄物の処理について本社主導で専門チームを組織し、法律の期限内に確実に処分するよう対応を進めています。

2020年3月31日現在、高濃度PCB使用電気機器は99.8%、低濃度PCBは95.6%の処理が完了しています。一方、蛍光灯安定器は処分待ちのものが多く、処理完了は45.7%にとどまっています。

●化学物資

IHIグループは、事業所・工場などにおけるPRTR法対象化学物質について、大気・公共水域・土壌への排出量と下水道・廃棄物への移動量を把握し、管理しています。

VOC(揮発性有機化合物)については、所属する日本産業機械工業会の循環型社会形成自主行動計画にのっとり、大気への排出抑制に取り組んでいます。

●生物多様性

IHIグループは、事業所・工場などの近隣地域と連携した環境保護活動を通して、周辺環境の回復や保全に努めています。また、環境月間を定めて役員・従業員に対する啓発を進め、生物多様性保全への意識向上を図っています。